

# 違い尊重 たすきつなく

## 新宿でピポ・ユニバーサル駅伝

### お年寄り、障害者ら350人

お年寄りや障害者、子供たちが互いの違いを認め、尊重し合いたがら生きるユニバーサル社会の実現を体感する「第9回ピポ・ユニバーサル駅伝」(NPO法人「コミュニティアクション・スクエア21」主催、毎日新聞社など後援)が20日、新宿区の国立競技場と周囲コースで開かれ、選手やボランティア、大会関係者約3500人が参加した。思い思いの速さで一本のたすきをつなぎ、会場には笑顔と健闘をたたえる拍手があふれた。

【神足傳輪、渡辺龍】



国立競技場のトラックを走る参加者

正午には全チームがゴールした。各チームでは日本リハビリテーション専門学校がマネージャーとして参加。そのうちの一人、田崎彩華さん(20)は「みんなで協力し、楽しく過ごせました」と笑顔を見せた。



声援を受けながら笑顔で走る参加者—いずれも三浦博之撮影

小学生▽65歳以上の高齢者▽車いす使用者▽障害者▽フリースタイル(規定なし)の各部門の5人と、伴走するボランティアらが10人で1チームを構成。20チームが出場した。午前10時55分に第1走者の車いす利用者がスタート、今回初めて同駅伝のコースに取り入れられた国立競技場内のトラックコースを駆け抜けた。江頭和典



伴走者の助けを受けながら走る参加者

ライオンスクラブ会員10人が貢献

○：今回の大会では、ライオンスクラブの東京地区が全面的にサポートし、会員約150人が受け付けなどの事務を担当したり、競技に参加するなど、それぞれの方法で貢献した。昨年の参加は3クラブだったが、今年は統括する河合悦子地区ガバナリーが「勝ち負けではなく、自分のペースで支え合おうと

うコンセプトが素晴らしい」と、都内全198クラブに支援を呼びかけていた。

障害者ある外国人研修生も参加

○：大会には、日本で障害者福祉を学んでいる外国人研修生も参加した。日本障害者リハビリテーション協会のダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業の研修生で、自らも障害があるモンゴルや台湾、マレーシア

など7カ国の男女7人だ。電動車いすで参加した韓国のパク・ユンニョンさん(24)は「駅伝は初めての経験。楽しかった」。パキスタンのムザミール・イスラムさん(22)は「パキスタンでは、車いすなら車いすだけが参加するイベントはあるが、これだけすべてを包摂したイベントはない。帰国したらぜひ同じような大会を提案したい」と話した。

# 東京 TOKYO

とうきょう支局

〒100-8051  
千代田区一ツ橋  
1の1の1  
TEL03-3213-9701  
FAX03-3212-5186

購読・配達

フリーダイヤル  
0120-468-012  
(終日)

広告・折込

毎日広告社  
TEL03-3213-3721  
毎日折込  
TEL03-3208-8611

天気

最高 最低  
30 23  
東南  
最大風速  
4.5